

1 本校の概要

本校は、令和4年度で創立40年目を迎える松江市内では最も若い普通科15クラス規模の高等学校である。令和3年度より松江市内に存在する3つの普通高校の通学区が撤廃され、松江市内の中学生は自由に3つの普通高校を選択できるようになった。このような中、各校はそれぞれの特色を生かした教育の魅力化を進めている。本校では、「島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制普通高校として、Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開する」学校を目指し、魅力化・特色化を進めている。令和元年度からは文科省事業の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受け、「持続可能な社会を創造する地域共創人の育成」を研究開発のテーマとして地域連携をより深めていく教育活動にも取り組んでいる。

2 「地域と協働した教育活動」における主な取り組み

(1) 地域との協働による探究的な学びの実現

「総合的な探究の時間」を中心に「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム「地域共創人育成 Project」を実施している。1年次は「地域に関心を持つ、地域の価値を知る」、2年次は「地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する」、3年次は「地域の中から新しい価値を創造する」をテーマに掲げ、地域と連携した探究的な学びを進めている。



企業とのミーティング(2年生)

(2) 「松江東高校魅力化コンソーシアム」の構築

「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」（平成30年度～令和2年度）を活用して、松江市、島根大学、松江商工会議所や島根県中小企業家同友会等との産官学連携をより強化した「松江東高校魅力化コンソーシアム」を構築し、運営している。



コンソーシアム会議

(3) 多様な選択教科を開設

学校設定科目「データサイエンス」、「EAST 国際交流基礎」、「EAST 国際交流」、「EAST 地域探究」「EAST プログラミング基礎」を開設するとともに、文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究を島根大学の協力を得ながら進めている。

3 成果と課題

令和2年度にこの事業の評価に関わるオリジナルのルーブリックを作成した。これを用いて、「東高生につけたい力」を各学期ごとに生徒による4段階の自己評価で評価しているが、各学年とも学期が進むにつれて評価の平均値が高くなる傾向が見受けられる。特に、「自分の生き方考える力」（1年生：2.29→2.53、2年生：2.42→2.90）、「伝える力」（1年生：2.30→2.63、2年生：2.25→2.73）について、1年間の変化にその傾向が顕著であった。このことは、地域と連携した学びを通して他者と協働するための力を伸ばしつつ、自らの生き方あり方を考える意識が生徒の中に育まれてきていることを表しているものと思われる。来年度の文科省事業終了を控え、地域連携とその評価について、どのように進めていくかが現在の課題である。

教員においても地域と協働した探究的な学びの必要性が概ね認識されてきた。一方で、探究的な学びを教科指導に取り入れたり、各教科の知識・技能を探究学習に取り入れる等、教科横断的な学びや総合的な探究の時間と各教科との連携をさらに深めていく必要がある。

1 本校の概要

本校は昭和 38 年に創立され、本年で創立 58 年目を迎える全日制普通科高校である。各学年10クラス(理数コースを各学年に1クラス)設置であり、全 30 クラスである。校訓は「進取 明朗 端正」であり、目指す生徒像として「ドリカムマインド(自分の進路に自覚的で、常に先を読み、行動する。)を持った生徒」を掲げている。

平成 7 年に本校は「城南ドリカムプラン」をスタートし、平成 22 年からは文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援事業対象校に指定され、連続 3 期 12 年目を迎えた。また、即興型英語ディベートや、進路学習と課題研究(ESD 探究)の両立を図る「総合的な探究の時間」の開発にも取り組むなど、「未来を切り拓く力」を生徒の身に付けるべく、「先駆ける城南」をモットーに教育活動に取り組んでいる。

2 「働き方改革と効果的な授業の両立」を目指す取組について

本校では朝 7 時 40 分から 45 分間の朝課外(希望制)の後、正課授業を 6 限実施(水・木は 7 限)してきていたが、保護者の負担軽減や生徒のゆとりある登校をうながすため、令和 2 年から朝課外を廃止し、週 32 単位時間から週 35 単位時間とした(コロナ禍による臨時休業により 6 月スタートとなった)。また、教職員の通勤負担軽減や介護・子育て支援のため、勤務時間を 3 つのパターンから選択(勤務時間を毎日選択することができる)することができるようにした。

その結果、朝課外廃止について教職員から「生徒が、朝の時間に余裕ができ遅刻が減った」「遠くから通学している生徒にとって本人や家庭の負担が減ってよかった」という声が寄せられ、週単位時間の増加についても、同じく教職員から「週 3 単位の正課授業の増加により朝課外の減少分のカバー以上の効果が上がっている」「校外模試の結果も例年と変わらないか、教科によっては上昇も見られる」という声がアンケートから寄せられた。

一方、1限開始を 8 時 20 分からとしたことで、近隣小・中学校の児童生徒と登校時間が重なり交通渋滞などがみられたため、交通安全確保の観点などから、令和 2 年 11 月から 1 限開始を 8 時 00 分に変更し、職員朝礼・朝礼を 1 限終了後にすることで、1 限目が空いている先生であれば登校指導が可能になった。また、教職員の勤務時間も 5 つのパターンから選べるようにした。

このことにより、教職員から「遅く出勤することで、朝の時間に余裕が出た。夫の介護の関係もあり、大変助かった」「以前は、職員朝礼が 8 時からだったが、9 時からに変更になったので、出勤時間が遅くなっても職員間の連絡上も安心感がある」「早く退勤できるので、メンタル面で、とてもよい。通院上、便利であり、交通渋滞を避けることもできる。実際には、勤務時間終了後にすぐに帰れない時もあるが、自分自身が勤務時間を選択しているので、退勤の時間目標をもって働くことができ、働き方改革にもつながっていると思う」といった声が寄せられた。

令和元年度までの時制	令和2年度からの時制	令和3年度現在
朝課外 7:40～8:25	職員朝礼 8:00～8:10	1限 8:00～8:50
職員朝礼 8:30～8:40	朝礼 8:10～8:20	職員朝礼 9:00～9:10
朝礼 8:40～8:50	1限 8:20～9:10	朝礼 9:10～9:20
1限 8:55～9:45	2限 9:20～10:10	2限 9:20～10:10
2限 9:55～10:45	3限 10:20～11:10	3限 10:20～11:10
3限 10:55～11:45	4限 11:20～12:10	4限 11:20～12:10
4限 11:55～12:45	昼休み(45分)	昼休み(45分)
5限 13:30～14:20	5限 12:55～13:45	5限 12:55～13:45
6限 14:30～15:20	6限 13:55～14:45	6限 13:55～14:45
清掃(15分)	7限 14:55～15:45	7限 14:55～15:45
終礼 15:35～15:45	清掃(15分)	清掃(15分)
(7限の日 水・木 週2日)	終礼 16:00～16:10	終礼 16:00～16:10
7限 15:30～16:20		課外 16:30～18:00
清掃(15分)		
終礼 16:35～16:45		
*完全下校時刻: 19:30	*完全下校時刻: 19:30	*完全下校時刻: 19:30

3 むすびに

選択制勤務を導入したことにより、教職員のタイムマネジメント意識と勤務意欲の向上が見られたので、働き方に関する意識面での改革は進んでいると考える。次は、具体的な超過勤務の要因分析を進め、解決すべき課題を明確化した上で組織的な取組をさらに進めたい。